

消防・救助技術の高度化等検討会（第2回）議事概要

1. 検討会の概要

(1) 日 時 : 平成 26 年 2 月 12 日 (水) 15:00~17:00

(2) 場 所 : 三田共用会議所 第4特別会議室

(3) 出席者 (50音順、敬称略)

委 員 : 飯田 薫、遠藤 高幸、奥村 徹、片桐 孝司、椛嶋 健二、
小林 恭一 (座長)、西條 政幸、瀬戸 康雄、竹泉 聡、鶴田 俊、
富永 隆子、平澤 崇憲、山口 俊明 (代)、松澤 孝行、武藤 重男、
山口 芳裕、渡邊 敏行、渡辺 又介

オブザーバー : 定岡 由典、鈴木 健、塚目 孝裕、中村 勝美、日高 隆治、
松田 満

2. 概要

- 資料2参考資料3緊急時応急措置指針の表1における物質名(和訳)が間違っている(例えばP182のゲルマニウム→ゲルマン)ので正しく訂正すること。
- 資料2参考資料3緊急時応急措置指針の表2における発生するTIHガスの表記を正確に記載すること。(例えばP216 H2S S02)
- 資料1第2章第3今後の課題(P15)消防本部に配備する資機材は、全ての消防本部が持つべき化学防護服について使い捨てタイプなど、具体的に記載されることが望ましい。
- 資料2 P69 ERGの活用については、ERGに記載された距離以上に離隔を必要とする場合もあるので、そのようなことも正しく翻訳及び表記すると良い。
- 本マニュアルの市販については、消防のみならず、警察、自衛隊とニーズがあるので、検討してほしい。
- 資料1 救助分科会における今後の課題とN災害等分科会における今後の課題のそれぞれに情報の共有と情報を得られる体制の確立とあるので、消防隊員に必要な情報が伝えられることが重要なので、歩調を合わせて主張してほしい。

- 原子力施設等における消防活動対策マニュアル等の既存のマニュアルは基本的に廃止扱いとするが、事故事例等、資料として有用なところは今後も活用してもらいたいと考えている。
- 資料3 P11 防じんマスク（N95）という記載について、N95は防じんマスクの規格にはないが実際は、国内規格のDS2とほぼ同等と言われているものであるので「防じんマスクまたはN95」など並べる表記に修正してはどうか。
- 資料3 P49 現場での汚染検査体制の確立が困難な場合、汚染はあるものとして除染（脱衣）をし、スクリーニングポイントを確立後に汚染検査を行う旨を加えてはどうか。